

## V 検証保育

### 検証保育指導案

平成 29 年 12 月 19 日（火）

男児 11 名 女児 15 名 計 26 名

保育者 石川 めぐみ

指導助言者 中尾 達馬

- 1 主な活動名 忍者ショーをしよう
- 2 ねらい ○友達と一緒に体を動かす楽しさや見せる喜びを味わう。
- 3 内容
  - ・グループの友達と楽しみながら忍者ショーを披露する。
  - ・友達の頑張っている姿を応援する気持ちをもつ。

#### 4 活動設定の理由

1 学期に忍者の絵本やダンスなどを通してそのイメージが広がっていき、2 学期には「忍者の修行」と題して多様な動きを取り入れながら運動遊びを楽しんできた。初めは一人で挑戦することが多かったが、現在はグループの友達と忍者ショーに出てみたいという共通の目的に向かって練習を重ねてきた。友達同士の意見の違いからトラブルになることもあったが、少しずつ譲ったり、提案したりしながら、話し合いをする機会の中で関わりを深めている。そこで、忍者ショーを披露する場を設け、たくさんのお客さんに見てもらうことで、友達と一緒に体を動かす楽しさを感じ、それが自信に繋がっていくのではないかと考える。またその自信が今後の遊びを広げる意欲へも繋がっていくのではないかと考え、本活動を設定した。

#### (1) 教材観

リズム「忍者のおにぎり」、絵本「わんぱくだんの忍者ごっこ」などを子ども達と楽しんできた。初めは忍者のイメージを楽しみながら、各々で運動遊びに挑戦していたが、徐々にグループでの取り組みに移行してきた。グループで忍者ショーに出るという共通の目的に取り組む過程において、互いの思いを伝え合いながら、友達との関わりが深まってきたと考える。衣装やポスター、チケットなどは個人で作成したものもあるが、大きな忍者の壁面をグループで描くようにしたことで、関わりを深めながら気持ちが更に高まったと考える。

#### (2) 幼児観

10 月の運動会でダンス「まじめ忍者」を披露したことで自信になり、さらに忍者に対しても興味、関心が高くなっていった。これまでの検証期間を通して初めは各々で忍者になりきって修行することから始まり、徐々にグループで忍者ショーを披露しようという共通の目的に向かうようになっていった。グループの名前決めから始まり、忍者ショーで披露する技を決めていく過程や、練習を共にする中でトラブルになることも多かった。時には泣いたり、練習に参加しなかったり、一日ではグループとしての意見をまとめることが難しいこともあった。状況に応じて教師が仲介したり、提案したりしながら少しずつグループとして協力したり、応援してあげる姿も見られるようになってきている。

#### (3) 指導観

グループの友達と一緒に体を動かす楽しさや見せる喜びを感じられるように援助していく。受付係や案内係、道具の準備や片付けなど自分達でできるところは協力しながらできるようにする。また頑張っている友達のことを応援する温かい雰囲気づくりをしていきたい。